

景気・見通しの悪化が緩やかに進行する

鈴鹿商工会議所
中小企業相談所

(総括)

鈴鹿商工会議所では、鈴鹿地域の企業の業況と今後の見通し、問題点等を把握するため、会員企業を対象に毎年1月と7月に景気動向調査を行っている。このたび平成27年上期(1月～6月期)の調査結果がまとまった。

全体の景気動向としては、前回調査(平成26年7月～12月期)と比較すると増税による景気悪化に歯止めをかけるため、政府が推進している景気浮揚策の効果が大企業に限定され、地方の中小企業・小規模事業者まで好影響が及んでいない。そのため増税による影響により景気は悪化傾向である。前年同期(平成26年1月～6月期)と比較すると前年同期の時点では、増税前の駆け込み需要が若干あったものの、景気が緩やかに後退し始めていた時期であった。今回の調査では、駆け込み需要の反動もあり、悪化傾向となった。景気見通しについて、市内大手企業の製造工場において、減産を開始したため、景気への悪影響が危惧される。

(対象 1,044社 回答企業 375社、回答率 35.92%)

DI値(ディフュージョン・インデックス)

DIとは、景気動向を示す指標で、調査時点における企業家の経済行動(強気や弱気など)を知るためのものであり、景気動向を客観的に判断する資料として幅広く使用されているもので、特に言及がない限り、「増加」「好転」したとする企業から、「減少」「悪化」したとする企業割合を差引いた値である。

●現状の景気について (図-1・3 参照)

「良い」「やや良い」は20.0%(前回23.4%:前年同期24.2%)、「やや悪い」「悪い」は42.9%(前回38.9%:前年同期36.3%)となった。

景気動向を示すDI値は、 $\Delta 22.9$ (前回 $\Delta 15.5$:前年同期 $\Delta 12.1$)と前回より7.4ポイント悪化、前年同期より10.8ポイント悪化している。

業種別では、製造業DI値 $\Delta 19.0$ (前回 $\Delta 16.8$:前年同期3.1)、卸売業DI値 $\Delta 38.5$ (前回 $\Delta 40.0$:前年同期 $\Delta 11.0$)、小売業DI値 $\Delta 50.8$ (前回 $\Delta 35.8$:前年同期 $\Delta 38.8$)、建設業DI値 $\Delta 9.2$ (前回0:前年同期1.7)、飲食業DI値 $\Delta 32.3$ (前回 $\Delta 13.0$:前年同期 $\Delta 48.4$)、サービス業DI値 $\Delta 9.8$ (前回 $\Delta 25.6$:前年同期 $\Delta 25.9$)となった。

●今後の景気見通しについて (図-2・3 参照)

「良い」「やや良い」は13.3%(前回13.7%:前年同期16.6%)、「やや悪い」「悪い」は43.7%(前回43.8%:前年同期41.7%)となった。

DI値は、 $\Delta 30.4$ (前回 $\Delta 30.1$:前年同期 $\Delta 25.1$)と前回より0.3ポイント悪化、前年同期より5.3ポイント悪化している。

業種別では、製造業DI値 $\Delta 26.6$ (前回 $\Delta 23.7$:前年同期 $\Delta 17.7$)、卸売業DI値 $\Delta 15.4$ (前回 $\Delta 40.0$:前年同期 $\Delta 33.3$)、小売業DI値 $\Delta 46.2$ (前回 $\Delta 51.0$:前年同期 $\Delta 55.2$)、建設業DI値 $\Delta 18.3$ (前回 $\Delta 23.4$:前年同期 $\Delta 13.7$)、飲食業DI値 $\Delta 45.2$ (前回 $\Delta 34.8$:前年同期 $\Delta 32.2$)、サービス業DI値 $\Delta 33.3$ (前回 $\Delta 34.9$:前年同期 $\Delta 31.5$)となった。

図-1 現状について

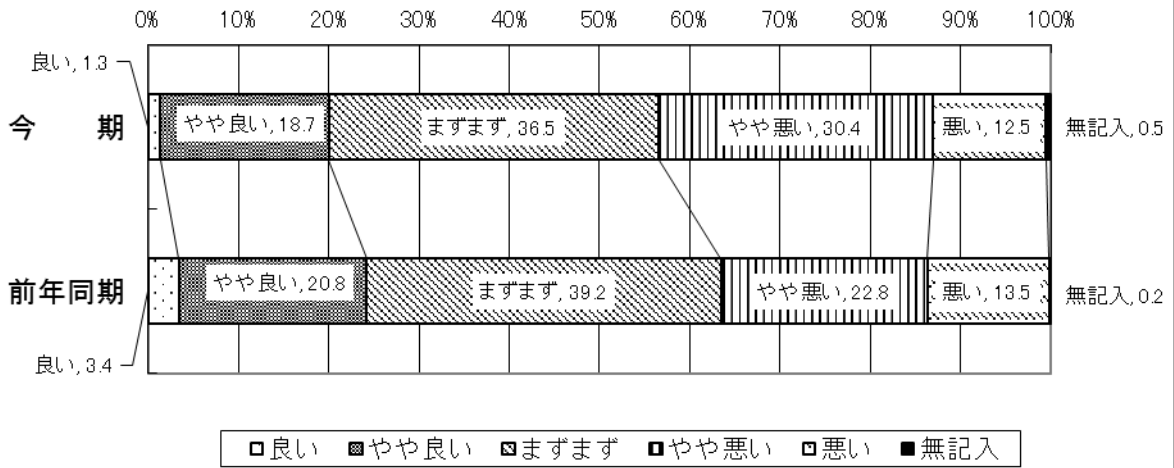


図-2 今後の見通し

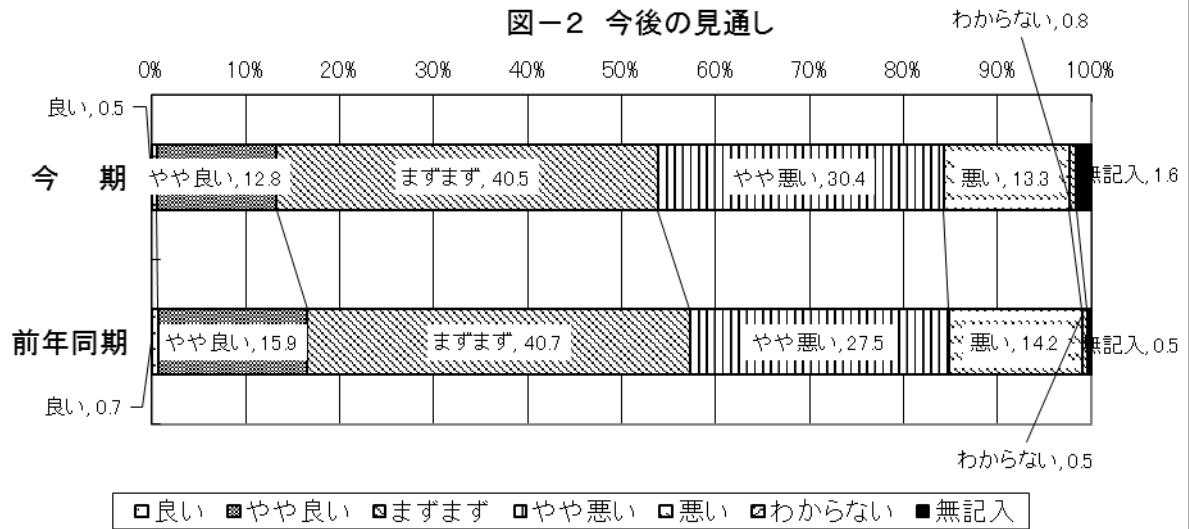
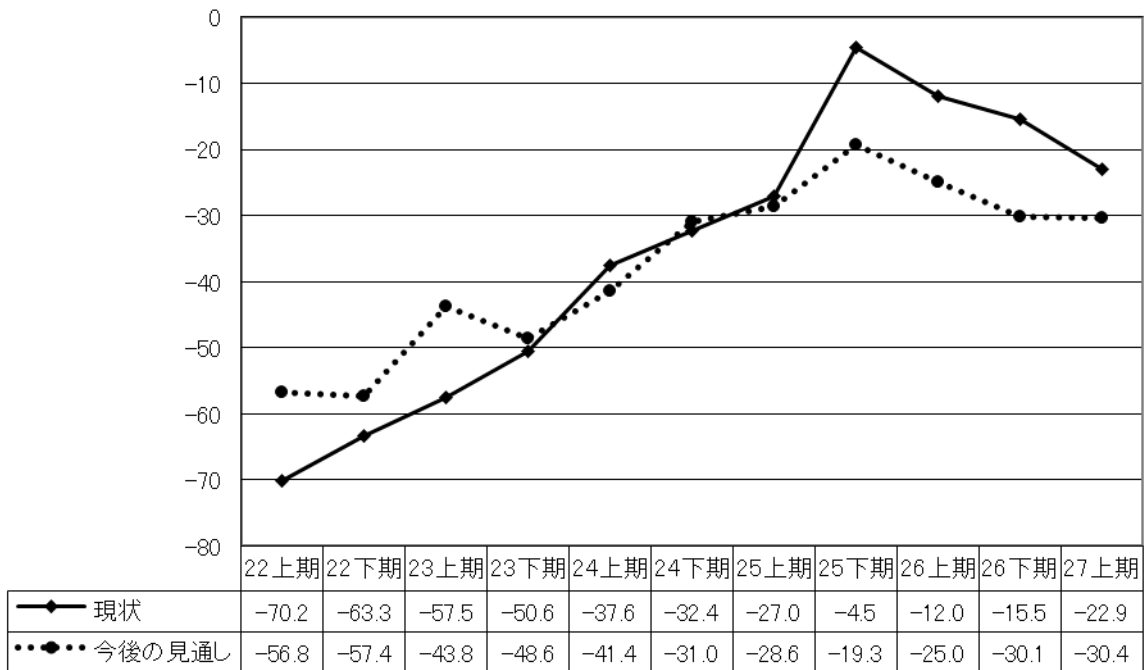
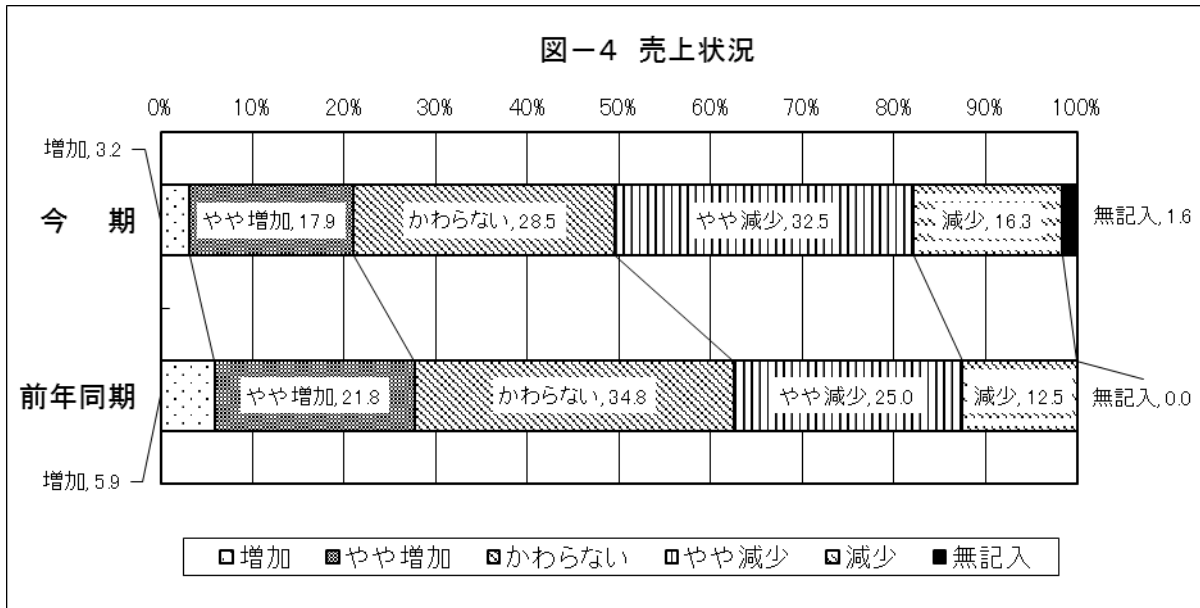


図-3 現状と今後の見通しの推移



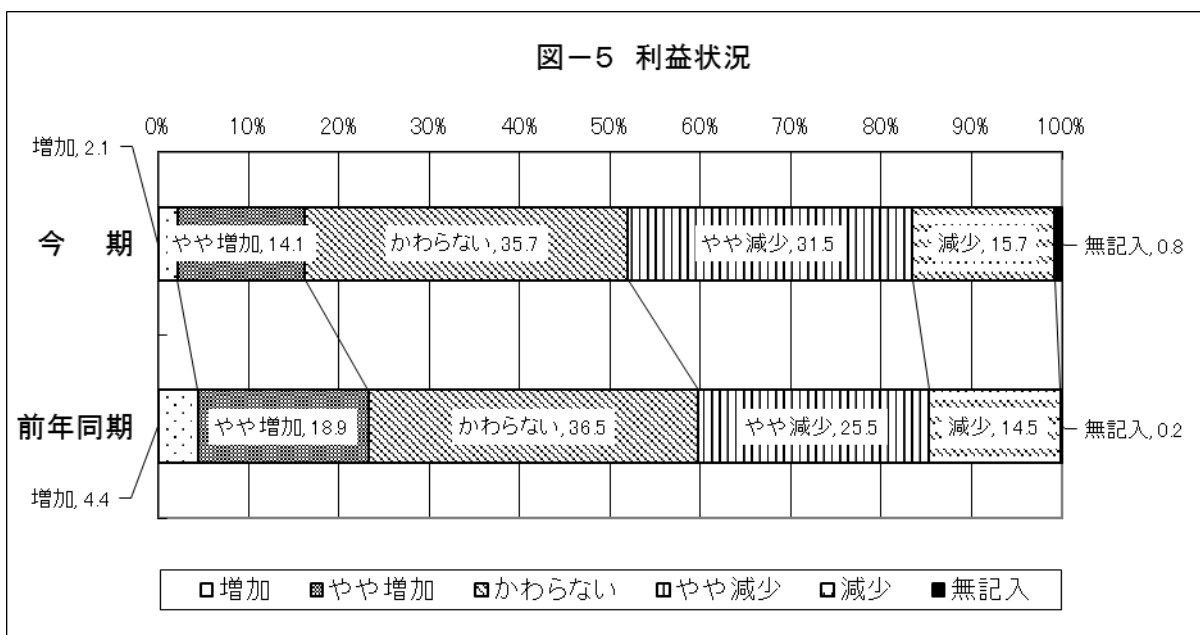
●売上状況について (図-4 参照)

「増加」「やや増加」は 21.1% (前回 26.9% : 前年同期 27.7%)、「やや減少」「減少」は 48.8% (前回 43.6% : 前年同期 37.5%) となった。DI 値は△27.7 (前回△16.7 : 前年同期△9.8) 前回より 11.0 ポイント悪化、前年同期より 17.9 ポイント悪化している。



●利益状況について (図-5 参照)

「増加」「やや増加」は 16.2% (前回 21.9% : 前年同期 23.3%)、「やや減少」「減少」は 47.2% (前回 45.3% : 前年同期 40.0%) となった。DI 値は△31.0 (前回△23.4 : 前年同期△16.7) 前回より 7.6 ポイント悪化、前年同期より 14.3 ポイント悪化している。



経営上の問題点(上位3位)

(%)

		第1位	第2位	第3位
業 種 別	製造業	売上・受注の停滞減少 (43.3)	原材料高及び不足 人材育成 (27.8)	人手不足 (20.0)
	卸売業	競争の激化 (61.5)	売上・受注の停滞減少 (46.2)	原材料高及び不足 (23.1)
	小売業	売上・受注の停滞減少 (60.0)	競争の激化 (38.5)	設備店舗の狭小老朽化 (21.5)
	建設業	売上・受注の停滞減少 (35.8)	人手不足 (35.0)	人材育成 (33.3)
	飲食業	原材料高及び不足 (54.8)	売上・受注の停滞減少 (41.9)	設備店舗の狭小老朽化 (35.5)
	サービス業	売上・受注の停滞減少 (33.3)	設備店舗の狭小老朽化 (25.5)	競争の激化 (23.5)
	交通運輸業	売上・受注の停滞減少 (100.0)	人手不足 (50.0)	(0.0)
	その他	売上・受注の停滞減少 競争の激化 (66.7)	借入難 (33.3)	(0.0)
総合	売上・受注の停滞減少 (42.9)	競争の激化 (27.2)	人材育成 (25.3)	
前年同期	売上・受注の停滞減少 (41.9)	競争の激化 (27.2)	人手不足 (26.2)	

地場産業—自動車関連

●現状の業況と今後の業況見通しについて

a) 現状の業況について

「良い」「やや良い」は 15.3% (前回 32.0% : 前年同期 27.0%)、「やや悪い」「悪い」は 50.0% (前回 48.0% : 前年同期 37.8%) となった。DI 値は $\Delta 34.7$ (前回 : $\Delta 16.0$ 前年同期 10.8) 前回より 18.7 ポイント悪化、前年同期より 23.9 ポイント悪化している。

b) 今後の業況見通しについて

「良い」「やや良い」は 15.4% (前回 28.0% : 前年同期 18.9%)、「やや悪い」「悪い」は 50.0% (前回 44.0% : 前年同期 40.5%) となった。DI 値は $\Delta 34.6$ (前回 $\Delta 16.0$: 前年同期 $\Delta 21.6$) 前回より 18.6 ポイント悪化、前年同期より 13.0 ポイント悪化している。

●売上状況と今後の見通しについて

a) 売上状況について

「増加」「やや増加」は 15.3% (前回 32.0% : 前年同期 40.5%)、「やや減少」「減少」は 50.0% (前回 44.0% : 前年同期 29.7%) となった。DI 値は $\Delta 34.7$ (前回 $\Delta 12.0$: 前年同期 10.8) 前回より 22.7 ポイント悪化、前年同期より 45.5 ポイント悪化している。

b) 売上の見通しについて

「増加」「やや増加」は 19.2% (前回 24.0% : 前年同期 21.6%)、「やや減少」「減少」は 53.8% (前回 52.0% : 前年同期 43.2%) となった。DI 値は $\Delta 34.6$ (前回 $\Delta 24.0$: 前年同期 $\Delta 21.6$) 前回より 10.6 ポイント悪化、前年同期より 13.0 ポイント悪化している。

●利益状況について

「増加」「やや増加」は 19.2% (前回 36.0% : 前年同期 27.0%)、「やや減少」「減少」は 46.2% (前回 44.0% : 前年同期 35.1%) となった。DI 値は $\Delta 27.0$ (前回 $\Delta 8.0$: 前年同期 $\Delta 8.1$) 前回より 19.0 ポイント悪化、前年同期より 18.9 ポイント悪化している。

■お問い合わせ

鈴鹿商工会議所中小企業相談所

TEL : 0 5 9 - 3 8 2 - 3 2 2 2

FAX : 0 5 9 - 3 8 3 - 7 6 6 7